

# 平成28年度研究調査報告

## 1. 修学旅行の実施状況調査

## 2. 修学旅行の課題調査

『学びの集大成を図る修学旅行』  
の取組について

～関東・東海・近畿 地方集計比較～

【感性をはぐくむ修学旅行】

平成29年3月

公益財団法人 全国修学旅行研究協会

## 目 次

I	調査研究のねらい	1
II	調査状況	2
1	調査について	
	(1) 調査の対象	
	(2) 調査の時期	
	(3) 調査内容	
	(4) 回答状況	
2	実施概況	3
	(1) 実施時期	3
	(2) 実施方面	4
	(3) 連泊状況	6
	(4) 地区別旅行費用	7
	(5) 地区別体験活動費用	8
	(6) 方面別旅行費用	
	(7) 方面別体験活動費用	9
	(8) 方面別交通費	
	(9) 方面別宿泊費	
	(10) 不参加生徒の有無	10
	(11) 理由別不参加生徒数	
3	連合体輸送(専用列車)について	11
	(1) 連合体輸送(専用列車)の利用	
	(2) 利用しない理由について	11
4	「学びの集大成を図る修学旅行」の取組について	11
	(1) 準備・取組開始時期について	11
	(2) 準備・取組に使う時間の内訳について	12
	(3) アクティブ・ラーニングの視点から、生徒の主体性を生かす取組について	16
5	修学旅行関係者への意見、要望について	18
III	まとめ	19

## I 調査研究のねらい

修学旅行は日本独自の教育文化であるとともに、日本人の旅の原点の一つとして、生徒たちの心に、色褪せることのない思い出と、社会性や豊かな感性といった多くの教育的価値を育んできた。日常を離れ、旅を通して様々な人やものと出会い、自分を見つめなおすという一種の精神行動は、人間の新たな成長にとって大きな役割を果たしてきたと言ってもいい。

戦後70年が過ぎ、修学旅行の輸送手段や実施方法など、その風景は確実に変わってきた。

かつて、バスガイドさんの掲げるクラス旗について見て回った観光型の修学旅行から、自分で行きたいところを決め、交通手段を選択し、自分たちの責任と主体性で行動する班別行動は、一つの大きな変革であった。最近では、キャリア教育や平和学習、環境学習や防災学習など、より明確な課題学習や体験学習を取り入れた修学旅行も決して珍しくはなくなってきている。

次期学習指導要領における授業改善のポイントである 主体的・対話的で深い学びへの取組は、修学旅行の実施に当っては、既に親しく積み上げてきたものである。修学旅行は本来、このような教育的価値と可能性を含んでおり、今後その価値は更に高まっていくものと考えられる。

今年度も、毎年行っている実施状況調査（実施時期、方面、費用等）と、研究主題に係る課題調査として、「学びの集大成を図る修学旅行の取組について」の継続調査を行った。

実施状況調査については、基本的な実施時期、日数、方面、訪問地、旅行費用、体験活動費用等について行っているが、それぞれの地区によって顕著に状況が変わるものもあれば、共通のものもあり、教育旅行としての特徴がよく分かるものである。

今年度は、実施方面の検討や北陸・北海道新幹線の利用、連合体輸送の利用状況等についても調査を行った。

また、今年で5年目となる「学びの集大成を図る修学旅行の取組について」に関わっては、修学旅行の更なる充実・改善と昨年の調査項目を更に発展させる意味で、

- ① 修学旅行の準備・取組等の始める時期
- ② 事前・事後指導の教育課程上の内訳
- ③ 主体的・対話的で深い学びへの取組に係る配慮事項等

以上の3点について調査・研究を行った。

回答の中には地域の状況によって異なるものも多く見られる一方で、教育旅行としての共通課題も見えてきている。地道な調査と分析・研究の重要性を改めて感じるところである。

## II 平成28年度修学旅行の実施状況並びに 「学びの集大成を図る修学旅行」の取組についてのアンケート調査

### 1 調査について

- (1) 調査の対象 関東5県(茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉)の公立中学校  
東海3県(愛知・三重・岐阜)の公立中学校  
但し、愛知県は県中学校長会調査データを使用  
近畿2府4県1市(滋賀・京都・奈良・大阪・兵庫・和歌山・大阪市)の公立中学校
- (2) 調査の時期 平成28年7月～11月
- (3) 調査内容
1. 平成28年度実施(調査以降の予定を含む)の修学旅行の概況  
時期・日数・旅行方面・宿泊地・旅行費用・不参加生徒数
  2. 実施方面の検討・変更について
  3. 連合体輸送(専用列車)について
  4. 「学びの集大成を図る修学旅行」の取組について

### (4) 回答状況

	校			
関東	関東	東海	近畿	合計
調査校数	1,339	740	1,137	3,216
回答数	1,333	740	1,116	3,189
回答率	99.6%	100.0%	98.2%	99.2%

	校					
関東	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計
調査校数	221	160	164	414	380	1,339
回答数	221	157	163	412	380	1,333
回答率	100.0%	98.1%	99.4%	99.5%	100.0%	99.6%

	校			
東海	愛知	三重	岐阜	合計
調査校数	414	155	171	740
回答数	414	155	171	740
回答率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

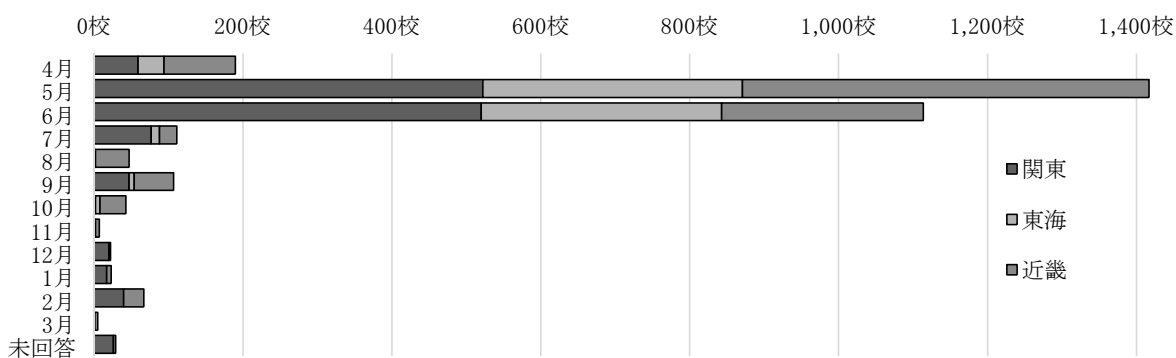
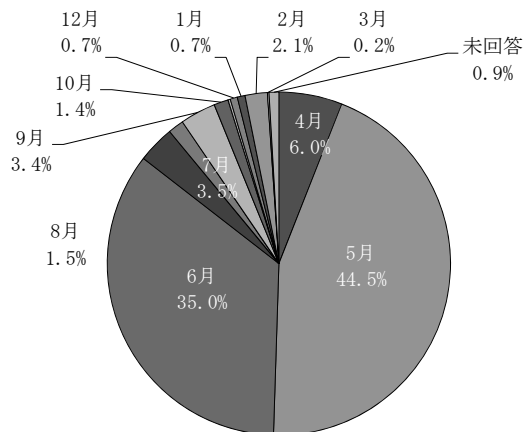
※7校実施なし

	校							
近畿	滋賀県	京都府	奈良県	大阪府	兵庫県	和歌山県	大阪市	合計
調査校数	97	96	103	331	258	121	131	1,137
回答数	94	93	101	330	254	113	131	1,116
回答率	96.9%	96.9%	98.1%	99.7%	98.4%	93.4%	100.0%	98.2%

## 2 実施概況

### (1)実施時期

	校			合計	割合
4月	59	35	96	190	6.0%
5月	522	349	546	1,417	44.5%
6月	520	323	271	1,114	35.0%
7月	77	11	23	111	3.5%
8月	2	0	45	47	1.5%
9月	47	7	53	107	3.4%
10月	2	6	35	43	1.4%
11月	0	2	5	7	0.2%
12月	20	0	2	22	0.7%
1月	17	0	6	23	0.7%
2月	40	0	27	67	2.1%
3月	1	0	4	5	0.2%
未回答	26	0	3	29	0.9%



### 実施時期の状況

・実施時期5～6月の傾向  
(24年)(25年)(26年)(27年)(28年)  
83%⇒82%⇒82%⇒82%⇒80%

・9～10月実施校  
(24年)(25年)(26年)(27年)(28年)  
81校⇒85校⇒85校⇒98校⇒150校

・実施時期については三地区とも5月6月を中心とした春から初夏の時期が最大のピークである。関東と近畿については9月～10月の初秋に集中する時期があるが、増加傾向にある。2月にも同様の集中時期があるがこれらは2年生に於いて実施していて、中にはスキー修学旅行もある。近畿については全ての月に実施校があり、広く分布しているといえる。

	校					合計	割合
関東	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉		
4月	26	32		1		59	4.4%
5月	104	5	68	53	292	522	39.2%
6月	71	86	75	213	75	520	39.0%
7月		25		51	1	77	5.8%
8月			2			2	0.2%
9月	20	7	1	18	1	47	3.5%
10月			1		1	2	0.2%
11月							0.0%
12月			1	19		20	1.5%
1月				15	2	17	1.3%
2月				39	1	40	3.0%
3月			1			1	0.1%
未回答		2	14	3	7	26	2.0%

校					
東海	愛知	三重	岐阜	合計	割合
4月		33	2	35	4.8%
5月	190	72	87	349	47.6%
6月	220	33	70	323	44.1%
7月			11	11	1.5%
8月					0.0%
9月		7		7	1.0%
10月		6		6	0.8%
11月	1	1		2	0.3%
12月					0.0%
1月					0.0%
2月					0.0%
3月					0.0%
実施なし	3	3	1	7	1.0%

校									
近畿	滋賀県	京都府	奈良県	大阪府	兵庫県	和歌山県	大阪市	合計	割合
4月	55	6	10	6	18		1	96	8.6%
5月	5	47	65	142	143	70	74	546	48.9%
6月	31	9	21	137	35	7	31	271	24.3%
7月				16	2		5	23	2.1%
8月		1		2	37	1	4	45	4.0%
9月		1	2	17	18	3	12	53	4.7%
10月		3	1	3	1	26	1	35	3.1%
11月		3				2		5	0.4%
12月				1		1		2	0.2%
1月		2		1		2	1	6	0.5%
2月	2	16	2	5			2	27	2.4%
3月		4						4	0.4%
未回答	1	1				1		3	0.3%

## (2)実施方面

### 28年度

校					
	関東	東海	近畿	合計	割合
北海道			13	13	0.4%
東北	12		2	14	0.4%
会津日光	23	11		34	1.1%
関東東海	1	606	349	956	30.2%
北陸信越	67	2	240	309	9.8%
関西	1,181	6	1	1,188	37.5%
関西・中四国	29	40		69	2.2%
中国四国		17	101	118	3.7%
九州	1	13	104	118	3.7%
沖縄		27	305	332	10.5%
海外	2		1	3	0.1%
その他		11		11	0.3%

### 27年度

校					
	関東	東海	近畿	合計	割合
			14	14	0.5%
	14	3	2	19	0.6%
	22			22	0.7%
	2	625	295	922	30.8%
	72	3	155	230	7.7%
	1,115	44	1	1,160	38.7%
	33			33	1.1%
		22	32	54	1.8%
		14	189	203	6.8%
		26	302	328	10.9%
	2	1	1	4	0.1%
		8		8	0.3%

校							
関東	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
東北					12	12	0.9%
会津・日光					23	23	1.7%
信州					64	64	4.8%
北陸					3	3	0.2%
関西	214	152	136	409	270	1,181	88.6%
広島・関西	7	5	11	2	4	29	2.2%
海外			2			2	0.2%
その他					2	2	0.2%
未回答			14	1	2	17	1.3%

※その他：神奈川、長崎

校

東海	愛知	三重	岐阜	合計	割合
会津日光	11			11	1.5%
東北関東			2	2	0.3%
関東東海	387	109	110	606	82.7%
北陸信越			2	2	0.3%
関西	5		1	6	0.8%
関西・中四国		11	29	40	5.5%
中国四国		2	15	17	2.3%
九州		4	9	13	1.8%
沖縄		26	1	27	3.7%
その他	8		1	9	1.2%

※その他：北陸・信州・山形・関西九州（愛知県校数不明のため）

校

近畿	滋賀	京都	奈良	大阪	兵庫	和歌山	大阪市	合計	割合
北海道		2	2	5	3	1		13	1.2%
東北		2						2	0.2%
関東富士伊豆	51	38	30	34	88	102	6	349	31.3%
信州	0	24	5	100	20		38	187	16.8%
北陸信越東海	0	1	0	25	5		22	53	4.7%
中国四国	2	8	3	40	5	1	42	101	9.1%
北九州	3	3	2	23	46	1	16	94	8.4%
南九州	0	1	0	1	6		2	10	0.9%
沖縄	37	13	59	102	81	8	5	305	27.3%
近畿圏	1							1	0.1%
海外	0	1	0	0	0		0	1	0.1%

## 実施方面

### （関東地区）

関東地区は約90%が関西（含む広島）方面へ  
（26年）（27年）

1105校（88.1%）⇒1148校（90.7%）

### 東北・会津日光・信州方面の変動

（22年）（23年）（27年）（28年）

東北） 21校⇒ 6校⇒ 14校⇒ 12校

会津・日光） 43校⇒ 2校⇒ 22校⇒ 23校

信州） 60校⇒ 107校⇒ 72校⇒ 64校

\*東日本大震災後、激減した東北方面が徐々に増えつつあるが、完全に戻っていない。信州は千葉県の中学校が64校実施している。

### （近畿地区）

### 沖縄、関東、九州、中国四国方面の変動

（22年）（23年）（27年）（28年）

関東） 347校⇒ 61校⇒ 295校⇒ 349校

中国四国） 21校⇒ 46校⇒ 32校⇒ 101校

九州） 140校⇒ 345校⇒ 189校⇒ 94校

沖縄） 286校⇒ 399校⇒ 302校⇒ 305校

\*東日本大震災後、関東方面が激減して中国四国、九州、沖縄方面が急増したが、22年度の状況に戻っている。

一方、熊本地震の影響で九州が半減し、その分中国四国・関東が増加した。

### （東海地区）

### 関東・中国四国・関西方面の変動

（22年）（23年）（27年）（28年）

関東） 554校⇒ 175校⇒ 625校⇒ 606校

中国四国） 50校⇒ 154校⇒ 22校⇒ 17校

関西） 18校⇒ 306校⇒ 44校⇒ 40校

沖縄） 28校⇒ 0校⇒ 26校⇒ 27校

\*23年の東日本大震災後に激減した関東方面が24年度には急増し震災前よりも増加傾向にある。中国四国方面は22年度より減少傾向にある。関西方面が増加傾向である。

・実施方面については関東では、90%以上が関西方面（広島含む）である。また、東海では83%近くが関東東海方面で言えば一極集中型である。それに対して近畿は関東東海と沖縄が31%と27%を占めるものの、北陸信越が22% 中国四国と九州がそれぞれ9%と非常に多方面に渡っている。但し熊本地震の影響は大きく、近畿では189校から94校まで減少した。また、東海でも僅かに減少している。

### (3) 連泊状況

#### 関東

校

二泊目 一泊目	青森	岩手	山形	宮城	福島	群馬	神奈川	新潟	長野	富山	石川	岐阜	合計
青森	6												6
岩手		2											2
宮城				1									1
山形			3										3
福島					20			1					21
群馬						1							1
神奈川							1						1
新潟								4		1			5
長野									53				53
石川										1	2		3
岐阜									6			1	7
合計	6	2	3	1	20	1	1	5	59	2	2	1	103

校

二泊目 一泊目	滋賀	奈良	京都	大阪	兵庫	長崎	海外	合計
滋賀	13		1					14
奈良		2	42	1	1			46
京都	1	17	1,100	2	1			1,121
大阪			6	5				11
広島			16					16
長崎						1		1
海外							1	1
合計	14	19	1,165	8	2	1	1	1,210

#### 東海

校

二泊目 一泊目	千葉	東京	神奈川	石川	山梨	静岡	大阪	兵庫	岡山	広島	山口	愛媛	合計
宮城		2											2
千葉	60	3	1		9	2							75
東京	11	126			4	1							142
石川				2									2
山梨	2												2
大阪							1						1
広島							21	15	8	9	1	1	55
岡山							1			1			2
合計	73	131	1	2	13	3	23	15	8	10	1	1	281

校

二泊目 一泊目	長崎	佐賀	沖縄	合計
長崎	12	1		13
沖縄			27	27
合計	12	1	27	40

※愛知除く

#### 連泊状況

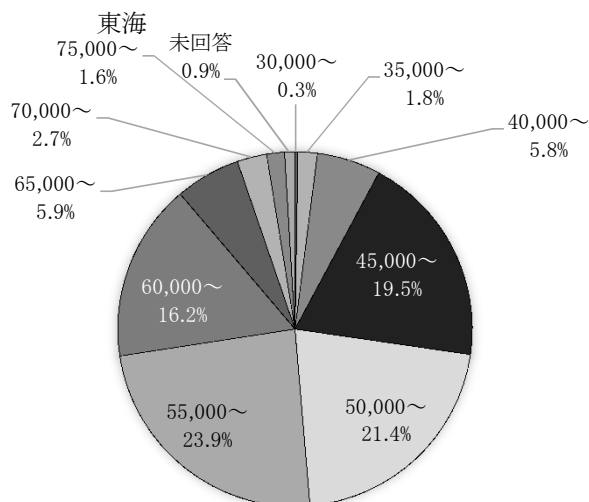
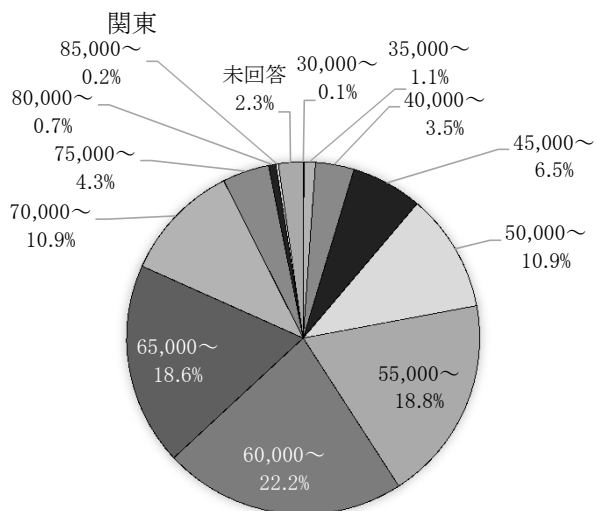
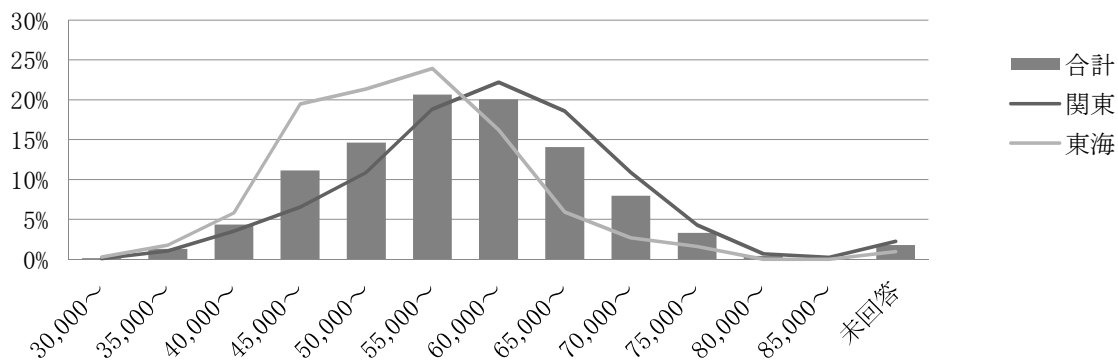
- ・連泊状況については関東では基本的には連泊が多く、東北方面でも隣接県にまたがる例は少ない
- ・関西方面は京都一泊、その他の県に一泊のパターンも見られるが、それでも京都連泊が圧倒的に多い。
- ・東海では、東京又は千葉での連泊と、それぞれ一泊ずつが73%にのぼる。



(4) 地区別旅行費用(生徒一人当たり平均額)

	関東	東海	近畿	合計	校
30,000～	1	2		3	0.1%
35,000～	14	13		27	1.3%
40,000～	47	43		90	4.3%
45,000～	87	144		231	11.1%
50,000～	145	158		303	14.6%
55,000～	251	177		428	20.6%
60,000～	296	120		416	20.1%
65,000～	248	44		292	14.1%
70,000～	145	20		165	8.0%
75,000～	57	12		69	3.3%
80,000～	9	0		9	0.4%
85,000～	3	0		3	0.1%
未回答	30	7		37	1.8%
合計	1,333	740		2,073	100.0%

※愛知含む



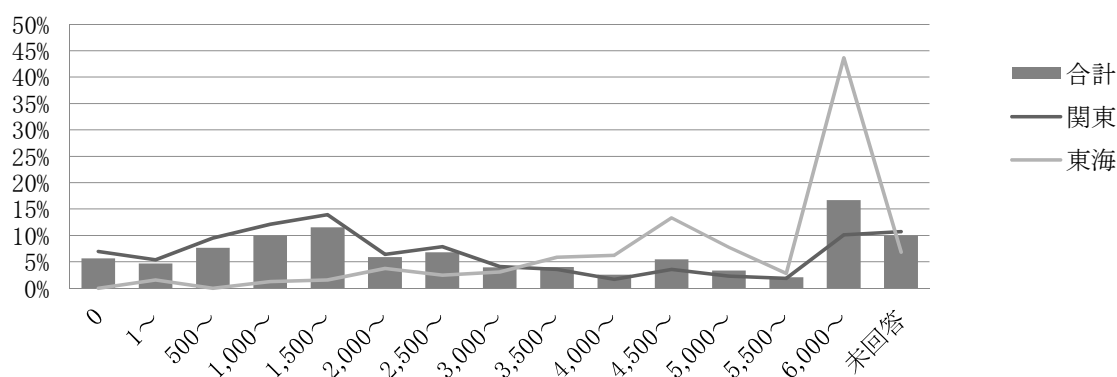
(5) 地区別体験活動費用(生徒一人当たり平均額)

	関東	東海	近畿	合計	割合
0	93			93	5.6%
1～	72	5		77	4.6%
500～	127			127	7.7%
1,000～	161	4		165	10.0%
1,500～	186	5		191	11.5%
2,000～	85	12		97	5.9%
2,500～	105	8		113	6.8%
3,000～	55	10		65	3.9%
3,500～	47	19		66	4.0%
4,000～	22	20		42	2.5%
4,500～	47	43		90	5.4%
5,000～	30	25		55	3.3%
5,500～	25	9		34	2.1%
6,000～	135	141		276	16.7%
未回答	143	22		165	10.0%
合計	1,333	323		1,656	100.0%

※愛知除く

体験活動費用

・生徒一人当たりの体験活動費用は1,000～2,000円の範囲が最大のピークで全体の26%を占める。もう一つのピークは6,000円以上で20%となっている。1,000～2,000円のピークはお菓子作りなどの製作的な活動が多いが、6,000円以上の体験については、様々な体験活動や社会体験活動と民泊費用も含まれるものもある。6,000円以上の体験については、関東地区が昨年に比べ74校の増、東海地区は128校の増となっている。全体としては一昨年から倍々で増加している。



(6) 方面別旅行費用(生徒一人当たり平均額)

	関東	東海	近畿
北海道			76,417
東北	54,221		73,648
会津日光	54,221		
関東東海	41,468	57,664	61,962
北陸信越	45,354	38,500	49,394
関西	57,475	46,000	50,154
関西・中四国	61,977	61,263	
中国四国		57,877	54,112
九州	71,071	64,496	58,894
沖縄		72,438	65,896
海外	300,000		
その他			
平均	60,917	61,041	60,174
最高額	85,000	79,928	96,098
最低額	30,150	38,000	35,864

※愛知除く

※小数点以下四捨五入

※平均額、最高額は海外除く

※愛知除く

※複数方面にまたがる場合は宿泊地基準

### 方面別費用平均(※海外除く)

平成27年		平成28年	
関東	60,061円	関東	60,917円
東海	60,558円	東海	61,041円
近畿	61,209円	近畿	60,174円
平均	60,609円	平均	60,710円

・方面別平均費用は昨年と比べ、関東地区では856円、東海地区では483円上昇している。一方、近畿地方では、1,035円下がっているが、これは熊本地震の影響で九州から四国や他方面に変更したことによるものである。

### (7) 方面別体験活動費用(生徒一人当たり平均額)

	円		
	関東	東海	近畿
北海道			3,859
東北	4,296		7,790
会津日光	5,015		
関東東海		7,249	6,890
北陸信越	4,225		11,650
関西	2,888	6,500	15,510
関西・中四国	1,025	5,479	
中国四国		4,872	9,314
九州	3,980	3,375	5,198
沖縄		3,807	4,258
海外			
その他	4,190	6,112	
最高額	20,000		

※小数点以下四捨五入

※愛知除く

### (8) 方面別交通費用(生徒一人当たり平均額)

	円		
	関東	東海	近畿
北海道			47,050
東北	16,621		41,010
会津日光	1,525		
関東東海		14,299	26,991
北陸信越	14,384		12,285
関西	23,204	6,202	10,800
関西・中四国	33,340	16,247	
中国四国		22,143	16,012
九州	34,332	26,817	28,472
沖縄		32,016	39,017

※愛知除く

### (9) 方面別宿泊費用(生徒一人当たり平均額)

	円		
	関東	東海	近畿
北海道			18,039
東北	19,278		18,962
会津日光	17,409		
関東東海		20,377	19,932
北陸信越	18,050		17,155
関西	20,210	15,600	16,200
関西・中四国	20,738	20,900	
中国四国		19,484	17,410
九州	1,500	18,889	17,089
沖縄		15,334	17,558

※愛知除く

### (10) 不参加生徒の有無

校・人

	関東	東海	合計	割合
いない	291	126	417	25.2%
いる	980	184	1,164	70.3%
経済的理由	学校数	9	98	5.9%
	生徒数	134	27	161
記入無し/不明	62	13	75	4.5%

※記入無し/不明 には平成26年7月以降実施の学校も含む

※内訳不明の学校がある

#### 経済的理由不参加

・経済的理由による不参加生徒数は関東地区が134名、東海地区(今年度より調査)が27名、合計161名となっている。関東地区については、昨年度が175名であったので、41名減少しているが、不登校によるものが299名、その他の理由が78名増加していることを考えると一概に減少しているとは言えない。経済的な理由で不登校になっている生徒、その他に分類せざるを得ない状況の生徒がいる可能性を考慮すると、実態数は増加している可能性もある。

### (11) 理由別不参加生徒数(延校数)

校・人

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	
合計	学校数	176	112	98	289	305	980
	生徒数	608	409	318	1,282	1,135	3,752
経済的理由	学校数	19	13	13	26	18	89
	生徒数	35	24	18	35	22	134
不登校	学校数	155	104	85	258	283	885
	生徒数	397	282	216	891	857	2,643
疾病	学校数	52	34	26	85	75	272
	生徒数	70	45	33	139	106	393
事故	学校数	9	1	2	5	2	19
	生徒数	14	1	3	6	2	26
その他	学校数	62	36	34	108	87	327
	生徒数	101	57	49	197	141	545

※内訳不明の学校があるため、合計数は一致しない

### 3 連合体輸送（専用列車）について

#### (1) 連合体輸送(専用列車)の利用

	関東	東海	近畿	合計	割合
利用している	772	271		1,043	63.0%
利用していない	508	44		552	33.4%
今後検討予定	29	11		40	2.4%
未回答	24			24	1.5%

#### 専用列車の利用

・専用列車を利用していない学校の理由については三地区によってそれぞれ若干異なる。関東、東海地区で利用していない学校の理由を見てみると、圧倒的に多いのは日程が選べないという点である。しかし、専用列車のメリットは割引だけでなく、災害時や突発的な事故等に対する対応面(代替列車の調整等)で大きなメリットがある。利用していない学校の中には、そうしたことへの理解不足も考えられる。

#### (2) 利用しない理由について(抜粋)

関東・東海合計

日程が自由に決められないため	276 校
実施時期が冬など、専用列車の設定がないため	70 校
学校規模(小規模、大規模)のため	49 校
旅行会社にまかせているため	29 校
バスを利用しているため	46 校
必要がないため	22 校
学校から駅までの距離など立地条件のため	33 校
費用がかかるため	17 校
専用列車の設定が無い方面での実施のため	59 校
往路、復路の時間的な制約を受けたくないため	8 校
航空機を利用しているため	15 校

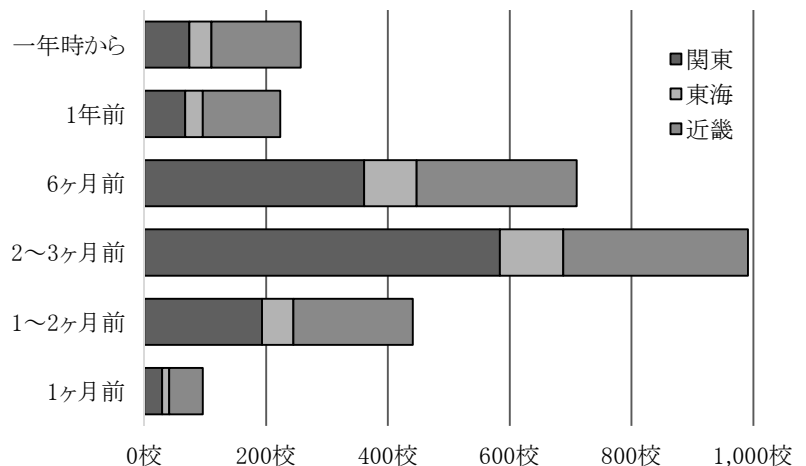
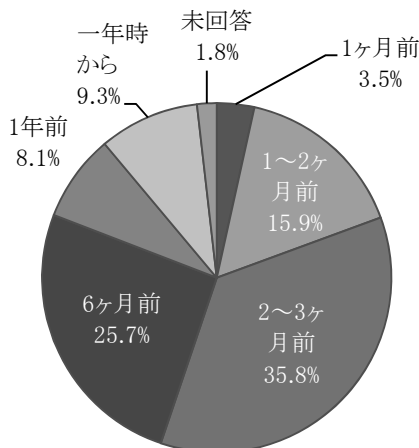
### 4 「学びの集大成を図る修学旅行」の取組について

#### (1) 準備・取組開始時期について

	関東	東海	近畿	合計	割合
1ヶ月前	29	12	55	96	3.5%
1～2ヶ月前	193	52	196	441	15.9%
2～3ヶ月前	584	104	303	991	35.8%
6ヶ月前	361	86	263	710	25.7%
1年前	67	29	127	223	8.1%
一年時から	74	36	147	257	9.3%
未回答	25		25	50	1.8%

#### 準備・取組について

・準備、取組の開始時期について、一番多いのは2～3ヶ月前からで、991校、35.8%を占める。一方で、一年時からと1年前からの学校を合わせると480校、約17%となり、長期的な計画の中での取組が窺える。



## (2) 準備・取組に使う時間の内訳について

### ①事前の取組の内訳(平均)

	時間		
	関東	東海	近畿
教科	1.4	1.7	3.3
特別活動	4.6	4.2	5.3
総合的な学習	10.0	9.7	7.6
その他	0.9	1.2	4.4
合計平均	15.4	14.8	13.1
合計最大	53.0	60.0	60.0
合計最少	3.0	1.0	2.0

※0は除く

#### 事前取組の内訳

・事前の取組における時間の内訳としては、何れの県も共通して「総合的な学習」が一番多く、次いで「特別活動」、「教科」となっている。どの地区も事前取組の時間が事後取組の時間を上回っている。

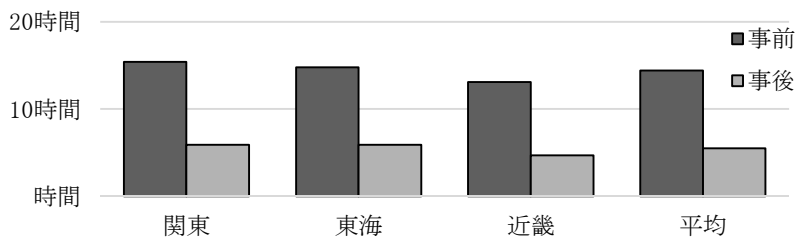
### ②事後の取組の内訳(平均)

	時間		
	関東	東海	近畿
教科	0.6	0.6	2.2
特別活動	1.6	1.6	2.2
総合的な学習	4.3	4.4	3.4
その他	0.2	0.3	2.0
合計	5.9	5.9	4.7
合計最大	43.0	46.0	28.0
合計最少	1.0	1.0	1.0

※0は除く

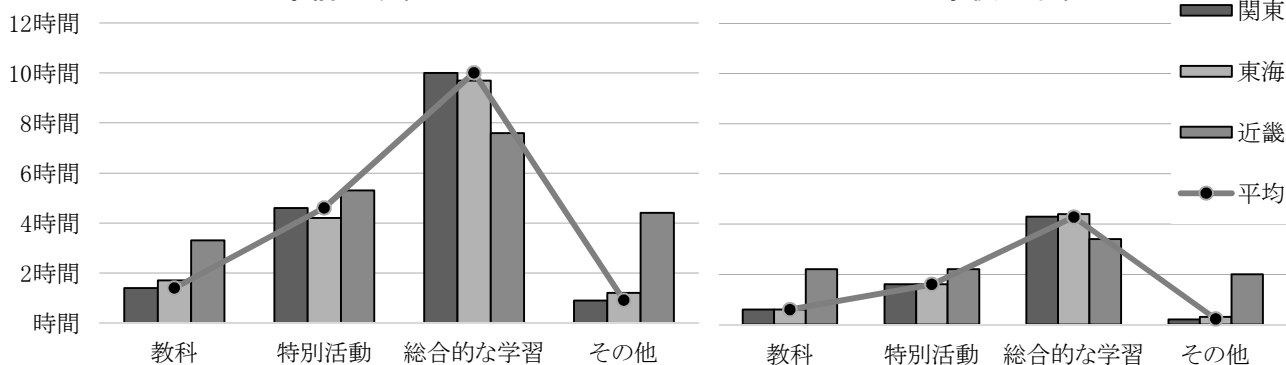
#### 事後取組の内訳

・事後の取組における時間の内訳も同様に、各県共通して、「総合的な学習」、「特別活動」、「教科」の順となっている。



事前の取組

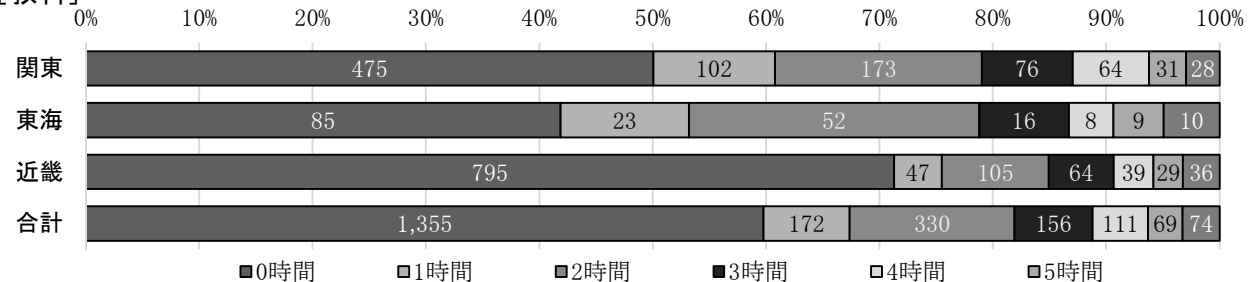
事後の取組



### ③事前の取組時間数(教科)

	校			
	関東	東海	近畿	合計
0時間	475	85	795	1,355
1時間	102	23	47	172
2時間	173	52	105	330
3時間	76	16	64	156
4時間	64	8	39	111
5時間	31	9	29	69
6時間以上	28	10	36	74

[教科]



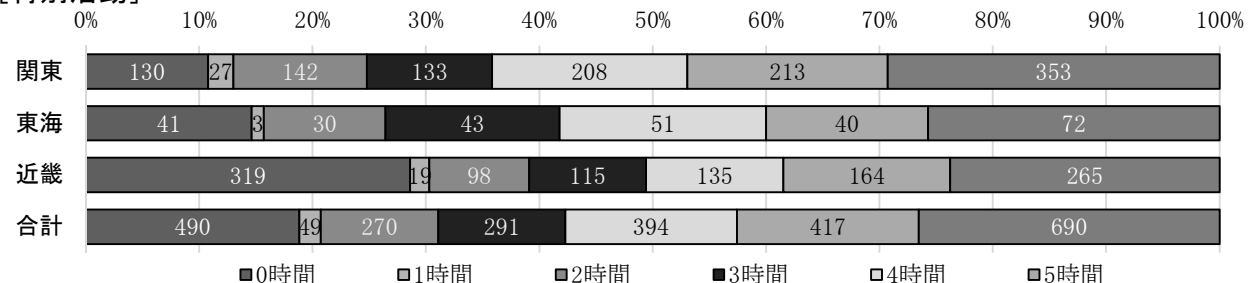
#### 事前の取組時間数(教科)

・事前の取組時間数における教科の割合は決して多くはない。しかし近畿地区では6時間を遥かに超えて取り組んでいる学校も見られる。

### ④事前の取組時間数(特別活動)

	校			
	関東	東海	近畿	合計
0時間	130	41	319	490
1時間	27	3	19	49
2時間	142	30	98	270
3時間	133	43	115	291
4時間	208	51	135	394
5時間	213	40	164	417
6時間以上	353	72	265	690

[特別活動]



#### 事前の取組時間数(特別活動)

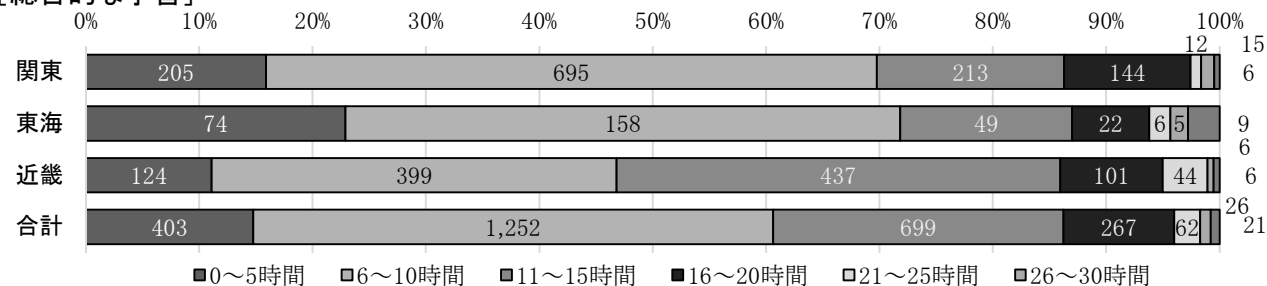
・特別活動における教科の割合は決して多くはない。しかし近畿地区では6時間を遥かに超えて取り組んでいる学校も見られる。

### ⑤事前の取組時間数(総合的な学習)

校

	関東	東海	近畿	合計
0～5時間	205	74	124	403
6～10時間	695	158	399	1,252
11～15時間	213	49	437	699
16～20時間	144	22	101	267
21～25時間	12	6	44	62
26～30時間	15	5	6	26
31時間以上	6	9	6	21

#### [総合的な学習]



#### 事前の取組時間数(総合的な学習)

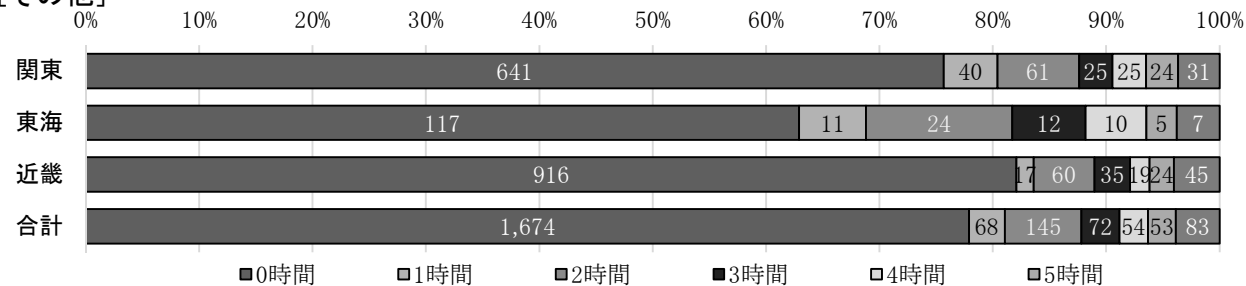
・総合的な学習については、どの地区においても割合は大きい。関東・東海では6～10時間、近畿地区では11～15時間が最も多くなっている。

### ⑥事前の取組時間数(その他)

校

	関東	東海	近畿	合計
0時間	641	117	916	1,674
1時間	40	11	17	68
2時間	61	24	60	145
3時間	25	12	35	72
4時間	25	10	19	54
5時間	24	5	24	53
6時間以上	31	7	45	83

#### [その他]



#### 事前の取組時間数(その他)

・どの地区もその他の割合は高くないが、近畿地区だけは教科よりもその他の時間が上回っている。



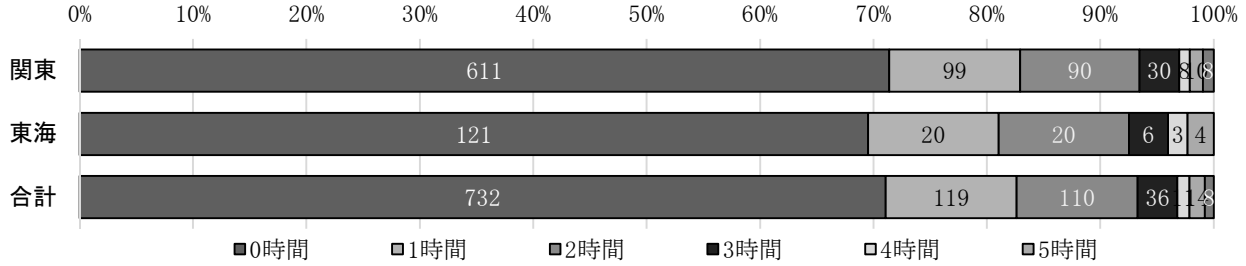
### ⑦事後の取組時間数(教科)

	校			
	関東	東海	近畿	合計
0時間	611	121		732
1時間	99	20		119
2時間	90	20		110
3時間	30	6		36
4時間	8	3		11
5時間	10	4		14
6時間以上	8			8

#### 事後の取組時間数

・どの地区においても、事後の取組時間は事前と比べ少なくなっている。近畿地区は事前と同様その他が教科を上回っている。

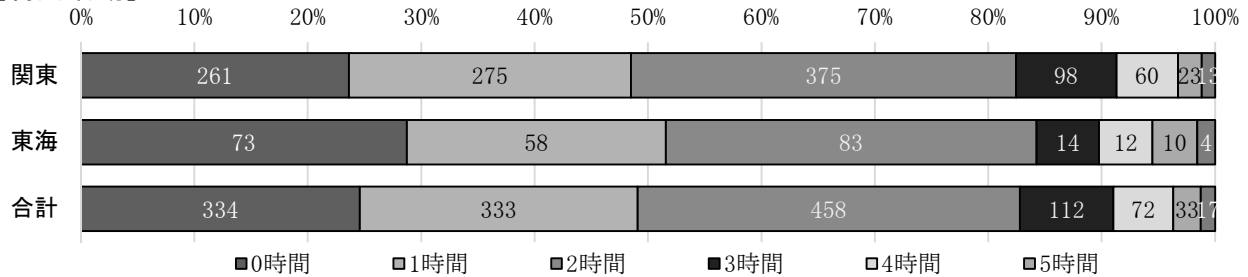
#### [教科]



### ⑧事後の取組時間数(特別活動)

	校			
	関東	東海	近畿	合計
0時間	261	73		334
1時間	275	58		333
2時間	375	83		458
3時間	98	14		112
4時間	60	12		72
5時間	23	10		33
6時間以上	13	4		17

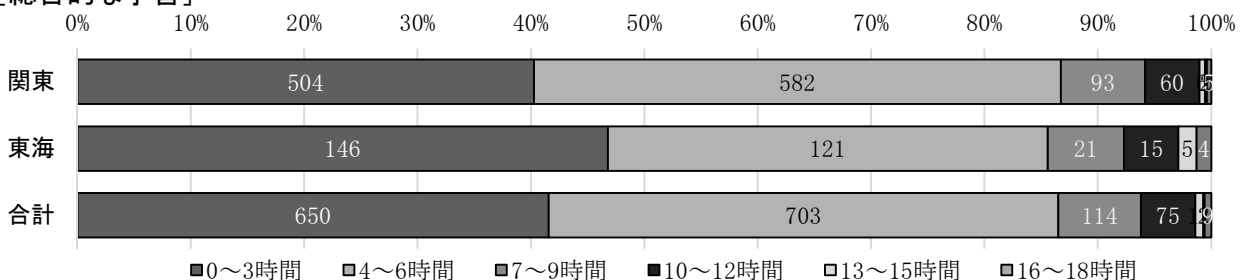
#### [特別活動]



### ⑨事後の取組時間数(総合的な学習)

	校			
	関東	東海	近畿	合計
0~3時間	504	146		650
4~6時間	582	121		703
7~9時間	93	21		114
10~12時間	60	15		75
13~15時間	6	5		11
16~18時間	2			2
19時間以上	5	4		9

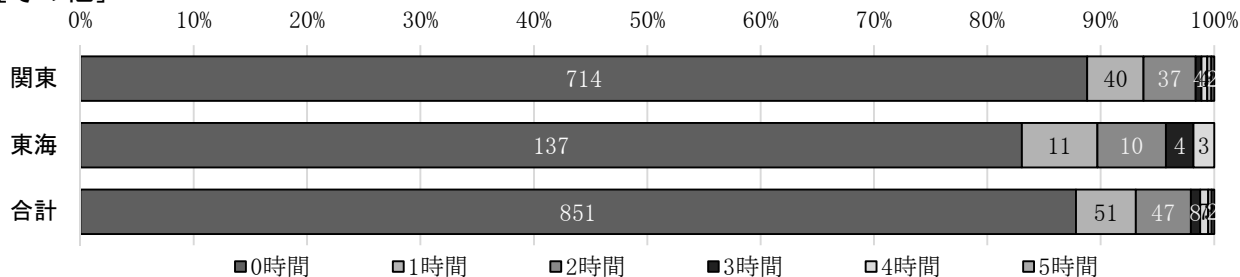
#### [総合的な学習]



⑩事後の取組時間数(その他)

	関東	東海	近畿	合計
0時間	714	137		851
1時間	40	11		51
2時間	37	10		47
3時間	4	4		8
4時間	4	3		7
5時間	3			3
6時間以上	2			2

[その他]



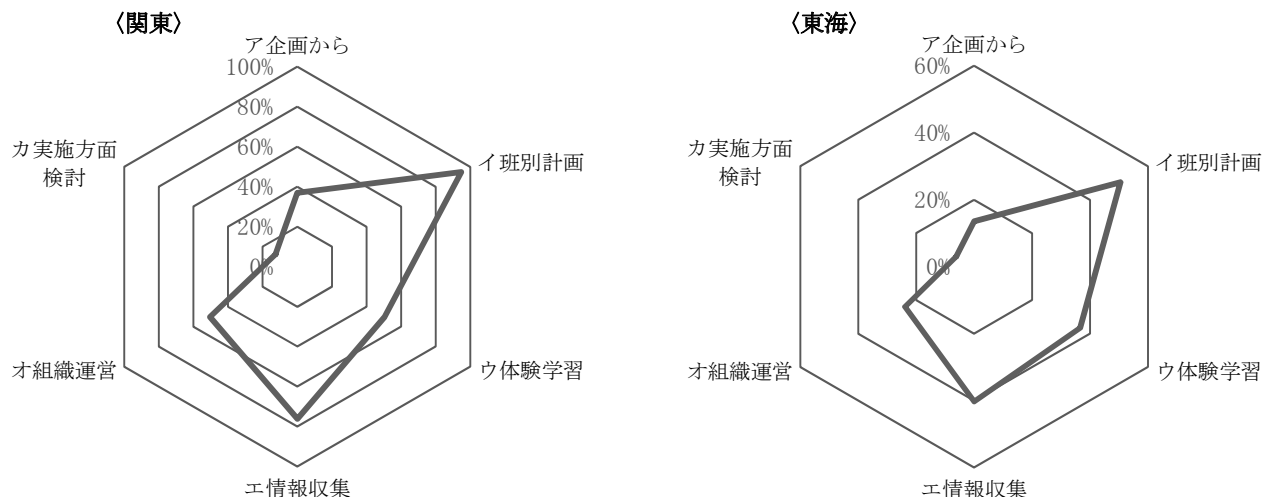
(3) アクティブ・ラーニングの視点から、生徒の主体性を生かす取組について

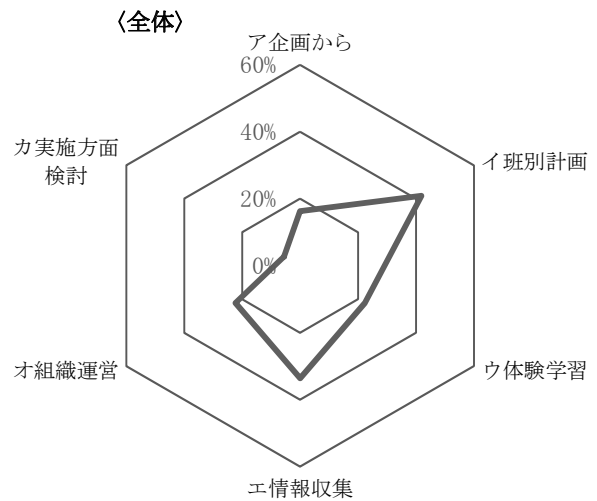
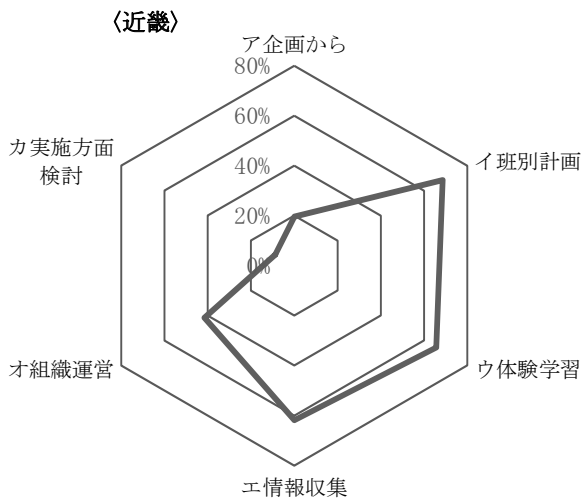
	関東	東海	近畿	合計	割合
ア企画から	492	77	219	788	26.1%
イ班別計画	1,263	287	766	2,316	76.7%
ウ体験学習	673	208	732	1,613	53.4%
エ情報収集	1,015	229	690	1,934	64.1%
オ組織運営	672	136	464	1,272	42.1%
カ実施方面検討	166	35	99	300	9.9%
キその他	24	7	37	68	2.3%

アクティブ・ラーニングの取組

- ・生徒の主体性を生かす取組の配慮については、どの地区も共通して、班別計画が一番高い数字を示している。情報収集については関東と東海は二番目に来ているが、近畿は体験学習が二番目に来ている。
- ・班別行動については、生徒が情報を集めて、見学場所やコースを決めるのがすっかり定着していることが窺える。その他の項目については、地区ごとの違いが見られる。

アクティブ・ラーニングの視点から、生徒の主体性を生かす取組について





### その他(自由記述)

- ・計画通りいかなかった場合の対応を考えさせた。
- ・実際に臨機応変に対応できる準備を行った。
- ・学級別活動時に体験学習について、生徒の希望・検討により実践した。(菓子ねりきり、抹茶体験) 係活動を細かく計画的に実施する際、実行委員中心に生徒の考えを活かした会議や役割の運営を行った。
- ・個人テーマに沿って、グループ行動。
- ・今年度の本校は、第1日目の奈良(京都から)はシルバーガイド、第2日目の京都市内はタクシー 第3日目はクラス単位という活動であり、アクティブ・ラーニングという実践はなかった。
- ・事前に広島から被爆者をお呼びして平和学習会を実施した。
- ・自分たちで修学旅行を企画運営し、実行したことの達成感・充実感を持たせるため、実行委員を中心として指導。
- ・実行委員を中心に事前からマナーアップクラスマッチ取組、学年全体の意識の向上を図った。
- ・実行委員会を組織し、クラスからの意見をまとめ、きまりを決定するなど生徒主体で運営している。
- ・修学旅行で収集した情報を他に発信する。
- ・修学旅行実行委員の発案で寺社仏閣(9ヵ所)に、3年生全員で縫った雑巾を寄贈。
- ・終了後、班ごとに現地で調べたことをまとめ、学年全体で発表する場を設け、学びの集大成を図っている。
- ・集会は実行委員を中心に運営した。
- ・宿泊場所での活動について生徒の創意工夫を促して実施した。
- ・生徒が体験場所や昼食場所を予約した。
- ・生徒の実行委員会の組織により、自主的な活動を促している。
- ・生徒主体の事前学習。
- ・組織の運営をできるかぎり生徒主体で行っている。
- ・総合的な学習の時間の調べ学習のテーマと関連付けて、班行動の計画を立てさせている。
- ・全員がプレゼンで発表(報告集会)
- ・班別活動時にタブレットPCを持たせ、位置情報などの活用を行った。
- ・平和学習(総合的な学習の時間)として位置付けている。
- ・平和学習の年間計画があり、それに沿って実施している。
- ・旅行会社や旅館とのやりとり、ルール決め、食事のメニュー決め、部屋割り等。
- ・旅行委員会を組織し、生徒主体の運営を行った。

## 5 修学旅行関係者への意見、要望等について

### JR

- ・交通費をもう少し下げて欲しい。
- ・一般客との混乗をさける配慮を願いたい。
- ・往路の上越新幹線で生徒数の座席しかなかった。  
職員も自由席で座れたが、生徒の近くでなく、不安だった。
- ・関修委専用電車を利用したいが、時間設定が合わない。  
広島→京都を16時くらいか翌日朝8時くらいにして欲しい。
- ・期日設定が柔軟にできると良い。
- ・継走列車（吾妻線）臨時電車をお願いしたい。
- ・少人数でも使いやすくして欲しい。
- ・できるだけ混乗を避けてほしい。
- ・変更は早く。混乗では座席の配慮を。
- ・団体割引が更に可能になると良い。
- ・東京駅、京都駅での集合場所の確保等。
- ・東京駅までの専用列車の運行をして欲しい。現在上野までで、上野ー東京は在来線乗換なので。
- ・四学級以上校の上越新幹線利用時の座席確保が困難。  
東京ー高崎間の専用電車の運行を望みます。

### 旅館・ホテル

- ・訪問先において大規模校受け入れのホテル等が少ない。

### 旅行会社

- ・旅行会社は、学校からの仕様書を上回るオプション等は加えないこと。
- ・こちらの思うことが伝わらなかった。旅館の融通が利かなかった。
- ・旅行会社からの情報提示が遅い。書類の不備があった。
- ・企画料が8%。保護者負担が大きい。
- ・企画料金を押さえたい。広島での企画。
- ・体験学習の企画・提案を多くしてほしい。
- ・経済格差も顕著になりつつあるため、可能な限り安価で実施できればと思います。
- ・費用面での考慮。
- ・旅行会社と連絡、相談をする回数が取れなかった。

### バス・タクシー

- ・観光バスの料金を値下げしてもらいたい。
- ・バスの事故。安全面を優先してほしい。
- ・バス代の値上がりによる経費の高騰。
- ・タクシー運転手の人間的信頼感の向上。

### その他

- ・民泊情報をできるだけ詳細に入手したい。
- ・事前の資料や地図をサービスしてほしい。
- ・旅行会社、宿泊先、体験学習協力者にお世話になっております。
- ・満足いく修学旅行で、関係者に感謝。

### III まとめ

平成20年度からまとめ始めたこの三地区（関東・東海・近畿）の実施状況調査であるが、回答してくれた学校数で見ると平成20年は3,017校、今年度は3,189校となり、この9年間では最も高い数字になった。アンケートの回答率を上げるために、校長会でのアンケート配布・回収方法を改善していただいた地区もあり、それによって、更にデータとしての信頼性が高まったことを考えると、改めてそのご努力に感謝申し上げたい。

言うまでもなくこうした調査のデータは、現在の修学旅行の状況を知る上で大切な判断資料であると同時に、現在の課題を改善していく研究活動や陳情活動、そして、将来の修学旅行を展望していく上においても極めて貴重な資料となるものである。

実施状況調査では、修学旅行の実施方面について、関東地区では東日本大震災以降、比較的変動はなく、東海地区と近畿地区においては、熊本地震の影響もありかなりの変化が見られた。また、実施方面と体験学習の内容については、関連性が深いことがよく分かる結果となった。

連合体輸送等については、利用しない理由等についても記入をお願いしたが、地域の置かれている状況等によって、その事情等にも差が見られたことは興味深いところである。

「学びの集大成を図る修学旅行の取組について」に関わっては、

- ① 修学旅行の準備・取組等の始める時期
- ② 事前・事後指導の教育課程上の内訳
- ③ 主体的・対話的で深い学びへの取組に係る配慮事項等

の3つの項目について調査してみたところ、基本的には大きな違いは見られないものの、地域や学校によって若干の差が出たことは、ねらいと目的によってもかなり違って来るものと感じた。

また、体験学習の内容については、関東地区では関西方面への修学旅行が圧倒的に多いこともあり、日本の伝統文化に触れる歴史・文化体験が中心である。それに対して、東海地区では、関東方面への実施が一番多く、体験の内容も社会体験の比率が最も多い。また、近畿地区からは沖縄と関東、九州、北陸信州と実施方面が多方面にわたっていると同時に、社会体験や自然体験を中心に、平和学習、自然スポーツ体験、生活文化体験（農家体験）等、内容も多彩である。実施方面と体験学習の内容は、ねらいと目的と同様に深い関連を持っている。

修学旅行費用については関東地区と東海地区では500円～1,000円ほど上昇しているが近畿地区では逆に1,000円程度さがっている。これは熊本地震の影響で方面変更によるものである。

平成28年度研究調査報告  
修学旅行の実施状況調査  
修学旅行の課題調査『学びの集大成を図る修学旅行』の取組について

平成29年3月  
公益財団法人全国修学旅行研究協会

〒102-0074 東京都千代田区九段南2-6-8  
Tel:03-5275-6651 Fax:03-5275-6653  
E-mail: shuryo@h2.dion.ne.jp  
URL <http://shugakuryoko.com>